

本調査は、子ども・子育て支援団体の現状等を把握・分析するために実施しました。回答にご協力いただいた支援団体の皆さまに、心より御礼申し上げます。

「貴団体の活動は次のどれに近いですか」の質問について、「世代を超えた交流・居場所づくり」の回答が最も多く、「貴団体が最も重要視している活動はどれですか」の質問についても、「世代を超えた交流・居場所づくり」が最も多いことが分かりました。具体的な活動内容として、医療的ケア児とご家族の仲間づくり、野外体験、子ども食堂、放課後デイサービス、学習支援、就労支援、スポーツを通じた世代間交流、障がいのある方の芸術文化活動の相談支援、などが挙げられました。

「これまでに連携して企画・事業に取り組んだことのある団体・関係機関を教えてください」の質問について、これまで他団体・関係機関と連携・協働して活動に取り組んだ経験のある団体が9割以上を占めることが分かりました。具体的には、「地域団体」が最も多く、次いで「行政」、「小学校」が挙げられました。「今後一緒に企画・事業に取り組みたい、ほかの団体・関係機関はありますか」の質問については、「子ども・子育て支援を主たる活動とする団体」が最も多く、次いで「児童館・児童センター」、「企業」が挙げられました。連携・協働を通じて取り組んでみたい活動内容としては、世代間交流や異年齢の子どもたちの遊びといった《多世代》に関するもの、地域課題の発見と解決や地域の居場所づくりといった《地域》に関するもの、情報交換や課題発見・解決策実践の共有といった《連携・協働》に関するものが挙げられました。

本調査を通じて、支援団体の皆さまが多様な活動に取り組まれていること、連携・協働を通じ地域社会全体で子ども・若者・子育て家庭を支えていきたいと考えていることが分かりました。当財団としても、ビジョンである「まち全体が子ども・子育て家庭にあたたかく、すべての子どもたちが健やかに育つ社会」の実現に向け、支援団体の皆さまが持つそれぞれの強みを生かしながら、連携・協働してより効果的な活動につなげることができるよう、取組を進めてまいります。

令和7年2月  
一般財団法人仙台子ども財団

※調査結果の詳細については、調査報告書【全体版】をご覧ください。

※調査報告書【全体版】及び調査・研究事業のページは、下記QRコードからご覧いただけます。



【全体版】



【HP】

【お問い合わせ】

一般財団法人仙台子ども財団 総務課

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビル4階

TEL 022-302-5275

FAX 022-302-5276

Mail info@sendai-kodomo.jp

HP https://sendai-kodomo.jp



【X】



【Instagram】



【Facebook】



【YouTube】

令和6年度 子ども・子育て支援団体の実態調査  
調査報告書【概要版】

令和7年2月  
一般財団法人仙台子ども財団

○調査結果の概要は次のとおりです。

○各項目について「調査報告書【全体版】」の該当ページを付しています。詳細は全体版をご参照ください。

調査概要

【全体版】 p.1~2

■調査の目的

地域社会全体で子ども・子育てを支えるにあたって重要な役割を果たしている子ども・子育て支援団体（以下「支援団体」という。）に関して、連携・協働の状況や情報発信に係る課題等を明らかにし、支援団体の現状把握を行うとともに、仙台子ども財団（以下「財団」という。）のネットワーク構築に資する取組の検討に役立つ。また、調査結果の公表を通じて、支援団体の社会的な認知度向上や、支援団体・企業・関係機関等相互の連携・協働の促進を図る。

■調査対象及び調査方法

- (1) 調査対象 仙台市域を中心に活動する子ども・子育て支援団体
- (2) 調査票の送付・回収方法 メールでの送付・WEB回答
- (3) 調査期間 令和6年7月10日（水）から8月10日（土）まで
- (4) 送付数 630件
- (5) 回答数 223件

■調査内容

1. 団体の現状について
  - (1)常勤/非常勤スタッフの人数、(2)無償/有償ボランティアの人数、(3)事業規模(支出規模)、(4)ご支援いただいた寄附の種類・件数、(5)活動分野(当てはまるもの全て/主たる活動分野)、(6)活動の対象、(7)具体的な活動内容、(8)今後取り組みたい活動内容、(9)活動上の課題(当てはまるもの全て/主たる課題)
2. 連携・協働について
  - (1)これまでに連携の実績があった関係機関等、(2)今後の連携を希望する関係機関等、(3)今後、連携を通じて取り組みたい活動内容
3. 広報について
  - (1)広報・情報発信の手段、(2)紙媒体の掲示方法
4. 地域社会全体で子ども・子育てを支えるために必要だと思うこと
5. 仙台子ども財団に対するご意見

回答団体について

【全体版】 p.3~4

■団体の形態・種類

| 種 別              | 件数 | (%)  | 備 考  |
|------------------|----|------|--|
| 認定NPO法人          | 14 | 6.3  | 「その他」の内訳は以下のとおり。<br>・企業が運営 14件<br>・個人で活動 5件<br>・労働者協同組合が運営 2件<br>・地方独立行政法人が運営 1件<br>・飲食店が運営 1件<br>・未分類、不明 2件 |
| 特定非営利活動法人(NPO法人) | 95 | 42.6 |  |
| 一般社団法人           | 11 | 4.9  |  |
| 公益社団法人           | 1  | 0.4  |  |
| 一般財団法人           | -  | -    |  |
| 公益財団法人           | 1  | 0.4  |  |
| 社会福祉法人           | 8  | 3.6  |  |
| 学校法人             | 1  | 0.4  |  |
| 宗教法人             | -  | -    |  |
| 任意団体             | 65 | 29.1 |  |
| その他              | 25 | 11.2 |  |
| 分からない            | 2  | 0.9  |  |

1. 団体の現状について

(1) 常勤/非常勤スタッフの人数 【全体版】p.7~12

- 常勤スタッフの人数については、「いない」が23.9%と最も多く、次いで「2~3人」が16.0%、「4~5人」が14.7%、「6~9人」が14.1%となっている。
- 非常勤スタッフの人数については、「いない」が21.5%と最も多く、次いで「2~3人」が20.2%、「4~5人」が16.6%となっている。

(2) 無償/有償ボランティアの人数 【全体版】p.13~18

- 無償ボランティアの人数については、「いない」が31.3%と最も多く、次いで「1~5人」が21.5%、「10~19人」が16.6%となっている。
- 有償ボランティアの人数については、「いない」が62.6%と最も多く、次いで「1~5人」が19.0%、「10~19人」が5.5%となっている。

(3) 事業規模（支出規模） 【全体版】p.19~24

- 事業規模（支出規模）については、「1000~3000万円未満」が20.2%と最も多く、次いで「50万円未満」が12.9%、「1億円以上」が12.3%となっている。

(4) ご支援いただいた寄附の種類・件数 【全体版】p.25~30

- 支援団体がこれまでに受けた寄附の種類については、「寄附金」が66.3%と最も多く、次いで「食料品」が47.2%、「日用品（文房具、玩具、家具などを含みます）」が42.9%となっている。
- 昨年度ご支援いただいた寄附の件数については、「なし」が31.9%と最も多く、次いで「1~5件」が31.3%、「10~19件」が10.4%となっている。

(5) 活動分野(当てはまるもの全て/主たる活動分野) 【全体版】p.31~42

- 活動分野（当てはまるもの全て）については、「世代を超えた交流・居場所づくり」が32.5%と最も多く、次いで「子育て相談・育児相談」及び「放課後支援」が23.9%、「障がい児(者)支援、医療ケア児の支援(その親やきょうだいの支援も含む)」が23.3%となっている。
- 主たる活動分野については、「世代を超えた交流・居場所づくり」及び「障がい児(者)支援、医療ケア児の支援(その親やきょうだいの支援も含む)」が13.5%最も多く、次いで「放課後支援」が11.0%、「こども食堂・地域のふれあいサロン」が8.6%となっている。

問19 貴団体の活動は次のどれに近いですか？

(複数回答/上位6項目のみ抜粋掲載)

| 活動分野                               | (%)  |
|------------------------------------|------|
| 世代を超えた交流・居場所づくり                    | 32.5 |
| 子育て相談・育児相談                         | 23.9 |
| 放課後支援                              | 23.9 |
| 障がい(者)支援、医療ケア児の支援(その親やきょうだいの支援も含む) | 23.3 |
| 学習支援                               | 22.7 |
| ひとり親支援                             | 20.2 |
| 遊び場づくり                             | 20.2 |
| 貧困家庭支援                             | 19.0 |
| こども食堂・地域のふれあいサロン                   | 19.0 |

問20 貴団体が最も重要視している活動はどれですか？

(上位6項目のみ抜粋掲載)

| 活動分野                               | (%)  |
|------------------------------------|------|
| 世代を超えた交流・居場所づくり                    | 13.5 |
| 障がい(者)支援、医療ケア児の支援(その親やきょうだいの支援も含む) | 13.5 |
| 放課後支援                              | 11.0 |
| こども食堂・地域のふれあいサロン                   | 8.6  |
| 保育・一時預かり                           | 5.5  |
| 芸術文化を通じた体験・交流の場づくり                 | 4.3  |
| ひとり親支援                             | 3.7  |
| 学習支援                               | 3.7  |

(6) 活動の対象 【全体版】p.43~47

- 活動の対象とする世代については、「小学生(6~12才)」が50.3%と最も多く、次いで「中学生(12~15才)」が42.3%、「高校生(15~18才)」が38.7%となっている。

(7) 具体的な活動内容 ※自由記述 【全体版】p.48~56

(8) 今後取り組みたい活動内容 ※自由記述 【全体版】p.57~62

(9) 活動上の課題(当てはまるもの全て/主たる課題) 【全体版】p.63~74

- 活動上の課題(当てはまるもの全て)については、「事業費や管理費などの資金確保が難しい」が48.0%と最も多く、次いで「事業や組織運営に携わる人材が不足している」が43.0%、「自団体の活動を効果的に広報・PRできていない」が26.0%となっている。
- 主たる課題については、「事業費や管理費などの資金確保が難しい」が29.6%と最も多く、次いで「事業や組織運営に携わる人材が不足している」が17.5%となっている。

2. 連携・協働について

(1) これまでに連携の実績があった関係機関等 【全体版】p.75~80

- これまでに連携の実績があった関係機関等については、「地域団体」が57.1%と最も多く、次いで「行政」が55.2%、「小学校」が47.9%となっている。また、回答団体の9割以上が連携の実績を有している。

問26 これまでに連携して企画・事業に取り組んだことのある団体・関係機関を教えてください。

| 団体・関係機関                   | (%)  |
|---------------------------|------|
| 地域団体                      | 57.1 |
| 行政                        | 55.2 |
| 小学校                       | 47.9 |
| こども・子育て支援を主たる活動とする団体      | 42.3 |
| 企業                        | 41.7 |
| 保育園・幼稚園・認定こども園            | 40.5 |
| 専門学校・短大・大学                | 40.5 |
| 社会福祉協議会                   | 40.5 |
| 市民センター・公民館                | 39.9 |
| 児童館・児童センター                | 38.7 |
| 中学校                       | 34.4 |
| 高校                        | 33.7 |
| 医療機関                      | 26.4 |
| 主たる活動とは別にこども・子育て支援に取り組む団体 | 20.9 |
| その他                       | 7.4  |
| 特になし                      | 4.9  |
| 分からない                     | 0.6  |
| 回答なし                      | 1.2  |

(2) 今後の連携を希望する関係機関等 【全体版】p.81~85

- 今後の連携を希望する関係機関等については、「こども・子育て支援を主たる活動とする団体」が33.6%と最も多く、次いで「児童館・児童センター」が29.6%、「企業」が27.4%となっている。

問27・36 今後一緒に企画・事業に取り組みたい、ほかの団体・関係機関はありますか？

| 団体・関係機関                   | (%)  |
|---------------------------|------|
| こども・子育て支援を主たる活動とする団体      | 33.6 |
| 児童館・児童センター                | 29.6 |
| 企業                        | 27.4 |
| 小学校                       | 25.6 |
| 地域団体                      | 25.1 |
| 行政                        | 25.1 |
| 保育園・幼稚園・認定こども園            | 24.7 |
| 市民センター・公民館                | 21.5 |
| 中学校                       | 20.6 |
| 社会福祉協議会                   | 20.6 |
| 専門学校・短大・大学                | 17.0 |
| 高校                        | 16.1 |
| 医療機関                      | 16.1 |
| 主たる活動とは別にこども・子育て支援に取り組む団体 | 15.7 |
| その他                       | 4.0  |
| 特になし                      | 11.2 |
| 分からない                     | 6.3  |
| 回答なし                      | 6.3  |

(3) 今後、連携を通じて取り組みたい活動内容 ※自由記述 【全体版】p.86~90

3. 広報について

(1) 広報・情報発信の手段 【全体版】p.91~95

- 広報・情報発信の手段については、「紙媒体(チラシ、ポスターなど)」が70.9%と最も多く、次いで「団体ホームページ」が60.1%、「Instagram」が47.5%となっている。

(2) 紙媒体の掲示方法 ※自由記述 【全体版】p.96~100

4. 地域社会全体でこども・子育てを支えるために必要だと思うこと ※自由記述 【全体版】p.101~110

5. 仙台こども財団に対するご意見 ※自由記述 【全体版】p.111~118